

球根アイリスの早期促成に関する試験

第1報 冷蔵開始期と処理日数

小野恵二・勝木謙蔵・三浦孝雄

(山形県園芸試験場)

Studies on the Early Forcing of Bulbous Iris

I Time of starting cold storage and days for treatment

Keiji ONO, Kenzō KATUKI, and Takao Miura

(Yamagata Horticultural Experiment Station)

1 ま え が き

2 試 験 方 法

球根アイリスの早期促成は秋冷の早い本県の地域性から有利に栽培でき、切り花が10~11月初旬であれば無暖房で栽培ができる。また果菜類、キク等のハウスの跡作に導入すればハウス輪作上も好ましい。寒冷地におけるこの作型の球根冷蔵について、冷蔵開始期と日数、さらに加温の有無との関連で試験を行った。

福岡産ブルーオーションの10cm球を入手後2日間くん煙処理し、球根の大きさをそろえ、1処理40球を供試した。冷蔵は10℃の湿冷条件で、冷蔵開始期を昭和51年7月13・18・23日、処理日数を40・45・50・55日とし、これらに加温の有無を組み合わせて試験区を設けた。冷蔵終了後1~4日間冷所に放置してから、ガラス室内の簡易ベンチに10×

表1 植えつけ期の球根の状態と出ら開花

区 番 号	冷 蔵 開 始 日	冷 蔵 日 数	植 え つ け 日	加 温 の 有 無	発 芽 球 率	発 根 球 率	植 ら え い つ ま け で か の 日 出 数	出 開 花 ら ま い の 日 数	到 花 日 数	平 均 開 花 日
1	7. 13	40	8. 27	有	62.5%	77.5%	44	7	51	10. 17
2	7. 13	40	8. 27	無	62.5	77.5	40	8	48	10. 14
3	7. 18	40	8. 31	有	70.0	90.0	41	8	49	10. 19
4	7. 18	40	8. 31	無	67.5	90.0	39	10	49	10. 19
5	7. 23	40	9. 4	有	82.5	82.5	46	5	51	10. 25
6	7. 23	40	9. 4	無	85.0	90.0	41	9	50	10. 24
7	7. 13	45	8. 31	有	90.0	90.0	38	9	47	10. 17
8	7. 13	45	8. 31	無	87.5	92.5	36	10	46	10. 16
9	7. 18	45	9. 4	有	90.0	92.5	39	8	47	10. 21
10	7. 18	45	9. 4	無	92.5	90.0	38	10	48	10. 22
11	7. 23	45	9. 9	有	87.5	90.0	41	7	48	10. 27
12	7. 23	45	9. 9	無	90.0	92.5	42	9	51	10. 30
13	7. 13	50	9. 4	有	85.0	85.0	37	9	46	10. 20
14	7. 13	50	9. 4	無	85.0	87.5	35	10	45	10. 19
15	7. 18	50	9. 9	有	95.0	95.0	36	9	45	10. 24
16	7. 18	50	9. 9	無	97.5	95.0	36	10	46	10. 25
17	7. 23	50	9. 14	有	82.5	80.0	41	5	46	10. 30
18	7. 23	50	9. 14	無	85.0	80.0	41	12	53	11. 6
19	7. 13	55	9. 9	有	70.0	70.0	34	10	44	10. 23
20	7. 13	55	9. 9	無	67.5	70.0	37	10	47	10. 26
21	7. 18	55	9. 14	有	90.0	87.5	38	5	43	10. 27
22	7. 18	55	9. 14	無	92.5	87.5	36	12	48	11. 1
23	7. 23	55	9. 17	有	77.5	80.0	41	7	48	11. 4
24	7. 23	55	9. 17	無	75.0	80.0	41	15	56	11. 12

表2 開花期における特性

区 番 号	花* 茎 長	最* 大 葉 長	葉* 数	ブ ラ イ ン ド 率	採 花 率
1	47.5 ^{cm}	42.9 ^{cm}	4.6	7.5 [%]	80.0 [%]
2	52.6	46.1	4.7	10.3	84.6
3	53.8	46.7	4.9	17.5	75.0
4	53.5	45.3	4.6	7.5	82.5
5	55.0	50.5	4.9	7.5	80.0
6	63.9	53.4	5.0	5.0	82.5
7	51.7	44.8	4.9	25.0	65.0
8	54.8	47.3	4.8	20.0	70.0
9	54.3	48.2	4.9	35.0	52.5
10	58.5	48.9	4.8	17.5	77.5
11	57.9	51.1	5.0	22.5	70.0
12	62.4	54.1	5.0	20.0	65.0
13	54.6	48.8	5.0	21.1	65.8
14	60.2	47.9	4.7	5.1	87.2
15	59.5	48.4	4.9	20.5	71.8
16	55.0	47.7	4.7	25.0	67.5
17	55.2	53.2	4.9	25.6	61.5
18	62.3	53.7	5.0	12.8	74.4
19	57.4	48.5	4.8	15.4	61.5
20	56.8	47.2	4.9	7.7	53.8
21	51.5	48.0	4.9	36.8	60.5
22	59.0	51.3	4.8	38.5	53.8
23	61.1	55.2	5.0	15.4	59.0
24	63.5	55.9	5.0	28.2	53.8

7.5cmの栽植密度で植えつけ、本葉2枚頃までしゃ光した。暖房は10月12日から始め、夜温15℃を目標とし、無加温区は夜間ビニールでトンネル被覆し保温に努めた。調査は植えつけ時の球根の状態・出らい・開花・切り花品質について行い、表の*印は10個体平均値で示した。

3 結果および考察

植えつけ時の発芽、発根はすべての区で認められたが、そろいが悪く発芽球率、発根球率に一定の傾向はみられなかった。植えつけ後出らい、開花までの日数は長期の冷蔵により短縮し、冷蔵開始のおそいもので多日数を要した。これは10月下旬以降低温期となるため、この時期の加温の影響は出らいから開花までの日数に強く表われ、無加温区の開花は11月上旬で1週間程度遅延した。平均開花日は冷蔵開始期の早い順となり、10月14日～11月12日まで43日～56日ですべて到花した(表1, 3)。

切り花品質は冷蔵開始期の影響が強く表われ、早期の冷蔵で花茎長、葉長を小さくし、葉数を減少したが、花茎長は50cm以上を確保できるので、実際栽培では問題とならない。加温の影響は無加温区の花茎長を大きくし、品質がすぐれた。ブラインド率、採花率は冷蔵日数で有意性を生じ40日冷蔵で好結果をえた(表2, 3)。

これらのことから、球根の発芽発根に若干の問題はあったが、寒冷地における10月切り栽培の開花、切り花品質は冷蔵開始期の影響が大きく表われる。実際栽培では冷蔵開始期が処理範囲であれば、40日程度の冷蔵で十分であり、無加温栽培で良質の切り花が得られる。今後は自家養成球を使用し検討する。

表3 処理要因の影響 (F)

処 理	植 え の つ け 日 か 数	出 の ら い 日 か 数	到 花 日 数	花 茎 長	最 大 葉 長	葉 数	ブ ラ イ ン ド 率	採 花 率
A (冷蔵日数)	10.92 ^{**}	1.86	6.92 [*]	1.71	6.59 [*]	1.79	5.61 [*]	9.03 [*]
B (冷蔵開始日)	20.98 ^{**}		27.41 ^{***}	7.01 [*]	49.25 ^{***}	7.84 [*]	3.95	
C (加温の有無)	4.00	24.11 ^{**}	16.32 ^{**}	7.45 [*]	3.02	2.06	2.48	1.61
A × B	1.10		2.91					
A × C	2.21	1.39	9.39 [*]					1.29
B × C		4.52	9.14 [*]			2.68		